



島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：鎌田陽子
(出雲市立神戸川小学校)

編集：広報部

VOL.47 2013.3.3 (雛祭号)

発行責任者 安田あけみ (長久小学校)

島事研ホームページ

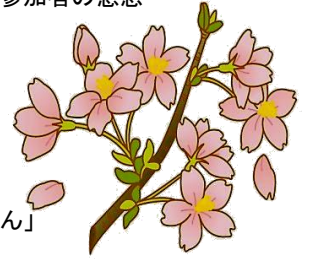
<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 忘れられない一言
(島根県教育センター所長 三島修治)
- ▶ 川本町の取組
- ▶ 学校事務セミナー参加者の感想
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 島事研この一年
- ▶ 研修あれこれ
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 実務コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



忘れられない一言

島根県教育センター所長

三島修治

1月の末に、島根県公立学校事務職員研究会の代表の皆さんから、事務職員の研修について申し入れがありました。お互いに忌憚のない意見交換ができたと思っています。意見交換の中で、皆さんの「もっと事務職員としての力量を高めたい」「よりよい学校づくりに事務職員として貢献したい」という熱意を感じながら、私は10数年前に出会った事務職員のAさんの姿を思い浮かべました。

Aさんは、私が初めて管理職として勤務した学校のベテランの事務職員さんでした。管理職への具申、PTAや地域活動への積極的な参加、若手職員へ社会人としてアドバイスをしていただくなど、学校運営にも大きな役割を果たすだけでなく、管理職として未熟な私を心身両面から支えてくださいました。

そんなAさんがある時、「私たち事務職員は、一人職場ですので、自分で一つ一つ学んでいかないといけない立場です。ですが、私たちは採用段階からきちんとした基礎的な研修を受ける機会が少なかったんですよ。」と自分自身を振り返りながら残念そうに言われました。その時の言葉や表情は今でも鮮明に私の記憶に残っています。この一言は、私が学校事務職員の研修について考えるきっかけとなりました。その後、私は義務教育課、中学校、教育事務所、教育センターと勤務しましたが、いずれの場でも、学校事務職員の資質向上を考える時にはAさんの一言を思い出していました。

現在、本県では、事務グループ制が導入されたり、学校事務職員の研修が体系化されたり、また、各教育事務所管内でも様々な自主的な研修の機会が設けられたりしています。事務グループも、事務リーダーや主幹を中心に、次第に活動が活発になりました。市町村教育委員会もいろいろな取組を行っています。何より、以前に比べ、学校事務職員同士がつながる機会が多くなり、若手も含めた学び合う場が充実してきたのではないかと思います。もちろん、資質向上には、これでよいということはありません。世代交代の中で、引き続き、県教育委員会、市町村教育委員会、県公立小中学校事務職員研究会が、それぞれの立場で資質向上を図っていくことが求められています。

Aさんの一言をお聞きしてから10数年が経ちましたが、今、Aさんは学校事務職員の現状をどのように感じておられるのでしょうか。近いうちに、Aさんと酒でも酌み交わしながら、じっくりとご意見を伺ってみたいと思っています。



最後になりますが、島根県公立小中学校事務職員研究会のますますのご発展と会員の皆様のご活躍を心からお祈りいたします。

3 川本町 スクールサポートセンターの取組

川本中学校 福井義信

3人で取組む共同実施

今年度、3校あった小学校が統合し、小学校1校中学校1校となりました。これまで5名でやっていたグループ活動が3名になってしまいましたが、3名だからできる共同実施を目指しています。

平成20年に発足した共同実施協議会を、活動の目的がより周りからわかりやすいように、今年から呼称を「川本町スクールサポートセンター」としました。これにより、関係者の意識が少し変わってきたように思います。

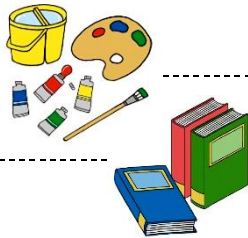

現在取り組んでいる内容は下記のとおりです。大風呂敷を広げ「とにかくできそうなことがあれば何でもチャレンジ!!」という思いでいます。事務職員は3人ですが、教育委員会職員や教頭会のみならず教育長・校長もスタッフと考え取り組んでいます。教育委員会職員との連携だけでなく教頭会との連携もとても大切にしています。そのことにより、新たな視点による新たな改善策が生まれてきています。「ネットワーク、フットワーク、チームワーク」を大切に、スクールサポートセンターとしての取組を進めています。人数が少ないことは、「連携しやすい。実現しやすい。修正しやすい。」3拍子そろった取り組みやすい環境といえるのではないのでしょうか。

今年の9月中旬より新しい取組として、事務リーダーが教育委員会・小学校へも席を置き、事務処理を行うこととしました。行う内容は共同実施業務ですが、教育委員会と学校の連携強化に一役かうことができていると思います。まだまだ効果は少ないですが、活用できる部分は大きいと思います。「失敗半分、成功半分、これ上等！」失敗を怖がらずとにかくチャレンジしています。

川本町学校事務担当者会 取組目標

テーマ「学びたい、学ばせたい学校づくりを目指して」

— スクールサポートセンターとしての役割を果たす —

学校管理・運営	1 教頭会との連携を図り、各校の情報交換を綿密に行い、各校の課題についてチームで改善する。 ・施設設備改善カルテに加え、施設マップを作成し、各校の施設、設備の安全な維持管理を目指す。 ・教頭との合同会を持ち、校務運営に関わる業務のスリム化や両校の学校運営の改善を目指す。 ・合同会と教育委員会との連携により、教育支援体制を確立する。	
	2 統合後の備品整理と新備品管理体制の確立を図る。 ・川本町新備品管理体制を確立する。 ・両校、教育委員会、高等学校を含めた物流管理システムの確立を目指す。	
	3 町内2校の連携をはかり、2校ならではの事務処理体制を確立し、格差のない事務の提供を目指す。 ・両校の事務処理方法の情報交換を行い、より正確で効率的な事務処理を目指す。 (安全で効率的な集金事務の確立・文書管理の検討)	
財務	4 財務事務の重要性を理解し、教育効果を高めるための財務事務充実を目指す。 ・教育委員会と連携し説得力ある予算要求事務、現場を見据えた予算執行を行う。 ・両校の予算要求内容のすり合わせを行い、教育効果を高める予算要求事務を行う。	
教育支援	5 教員の教授活動を支援する。 ・人材バンクや共有フォルダの利用を促進する。 ・通知表・指導要録のデジタル化を支援する。	
	6 学校現場・保護者・地域を見据えた学校情報の発信を考える。 ・町のホームページを活かし、学校情報を保護者に向け発信する。	
	7 教職員への情報発信を行う。 ・「事務便り」や「事務のしおり」により有益な情報提供を行う。 ・両校及び教育委員会との情報交換を密にし、情報を管理職及び学校現場に伝達する。	
システム開発	8 教育委員会との連携を強化し、2校ならではの事務処理の簡素化、システム化を推進する。 ・教委、学校相互の事務・業務の見直し、事務処理の簡素化を検討する。 ・諸規定の整備を進める。	
	9 PCを活用した事務処理の効率化やICT環境整備を目指す。 ・共有フォルダの有効活用やPCによる事務処理の効率化を目指す。 ・授業に生きるPC環境やICT環境整備を推進する。	

難が有るのは有難い人生

川本町教育委員会教育長 松井 紹憲

昨年の学校事務共同実施協議会の活動評価で、小学校が統合し1校となり、体制が変わるこの機会に共同実施の目的を再確認し、2校であるからこそできる良さを生かす活動にしていこうという提案がありました。活動内容は、「集金システムの小中共通化」や「物流ネットワークの構築」など多岐にわたっていますが、大きな改善点は、共同実施組織の名称を「川本町スクールサポートセンター」とし、学校支援としてのセンター的機能を強化していくことです。

掲げた目標は明確であってもなかなか本質の部分に迫ることは容易ではありません。学校事務の標準化、効率化を図り事務機能を高めていくためのさまざまな規程整備や事務処理システムの確立についても、人数が少なく整備が進まない等の課題があるのが現実です。

また、新たな取組として学校と教育委員会の連携強化のために、事務リーダーが教育委員会へも席を置き、共同実施に関する業務を行うこととしました。今年度は、年度中途ということもあり十分に機能しなかった面もありますが、新年度は教育委員会が行う共同実施業務へのリーダーの関わりを再検討することとしていますので、双方の意思疎通と情報共有がはかられ、連携強化がさらに進むものと期待しているところです。

我が家の日めくりカレンダーに「難が無いは無難な人生、難が有るは有難い人生」とありました。新たな取組やシステムの異なる組織に入ることには戸惑いや困難もあると思います。しかし、いろいろなことにチャレンジした人ほど話題が豊富で楽しい人です。私はこの言葉を贈り応援します。

「がんばれ事務リーダーそして学校事務職員！！」

消極的なアンテナではなく積極的なソナーをもつ！

川本中学校 校長 佐藤 文宣

今年度川本町では、「川本町スクールサポートセンター」と改名し、新たにスタートすることになりました。「名前が変わっただけ？」と思われるかもしれませんが、これには大きな違いがありました。

まず、「何のための共同実施か？ それは学校支援！」、目的そのものを名称にすることで、恩恵を受ける職員や児童生徒、保護者に存在意義を周知することができました。また、学校支援の視点で必要と思われる事柄を洗い出したことで、組織で取り組む方向性を明らかにすることができ、支援体制の強化につながりました。

現在、事務リーダーが核となり、教頭会や教育委員会と密接な関係を築きながら、教育支援や予算・備品の有効活用など、文字通りスクールサポート（学校支援）に向けて精力的に取り組まれ、成果を挙げていただいています。

「消極的なアンテナではなく積極的なソナーをもつ！」という言葉がありますが、この川本町の取組の素晴らしいところは、事務職員の皆さんが、教育活動を直に目にし、今、学校に何が必要か、教員・生徒・保護者を支援するために何が必要かと思い巡らし、「積極的なソナー」をもっていることにあると思います。

これまでの「川本町スクールサポートセンター」の功績に感謝しつつ、さらに学校支援体制が充実したものになるよう、私もしっかりとかがわらせていただこうと思っています。

島根県学校事務セミナー

「教育の情報化の最新動向と新しい学校事務の在り方」
鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 藤村裕一
「島根県のメディア教育の現状と学校におけるICT機器活用」
島根県教育センター 指導主事 瀬崎邦博

2月15日
ニューウェル行出雲

山口県岩国市立川上小学校 政兼泰子

このたびは、島根県学校事務セミナーに参加させていただき、ありがとうございました。私は、ICT活用については、苦手分野で不安だったのですが、参加してよかったです。藤村先生の、ICTの導入はゴールではなく、スタートであることに共感しました。

私の学校がある岩国市では、校務支援システムが平成23年度から導入されました。電子黒板等も購入されて、活用を推進しようと、民間講師を招いて研修を積んでいますが、韓国やイギリスのように日常的な環境（設備も含めて）になっていないので、その場限りの研修で終わってしまうのが現実です。しかし、これからはICTの活用が授業の教材や教職員の仕事量削減につながっていくことは分かっているのだから、予算確保も含めて、事務職員も働きかけをしていくべきであると感じました。後半のセキュリティ向上対策でのパソコン研修は役に立ちました。職場で先生方に広めようと思います。

とても、ICTを身近に感じることができ、是非、山口県でも、藤村先生を講師としてお招きしたいと思いました。お世話になりました。ありがとうございました。

参加者の感想

五十猛小学校 角田かおり

今回のセミナーに参加させていただき、2つの発見がありました。1つは「教育の情報化の実態」です。日本国内、海外の整備状況を知り、学力向上や業務能力改善のために、情報化が必要だと教えていただきました。もう1つは、校内の環境整備担当者として連携の要となつて動かなければならないと改めて気付かせていただいたことです。初心にかえて、自分の所属する学校が“どういう教育をしていくのか？”に、担当する立場として答えられるように調整を図っていかねばならないと背中を押される思いでした。

青原小学校 野津則子

「校務支援システム」について詳しく聞くことができたのは初めてでした。私達の仕事もますますICT機器を使った情報処理へ変化していくのだろうと思います。セミナーは新しい情報を知ることができる良い機会だったと思います。

塩冶小学校 杉本和勸

実際に電子黒板、パソコン、プロジェクターを使つての講演だったので、学校での授業を想像しやすかった。また、ICT教育先進国での実践例もとてもわかりやすかった。ICT機器を取り入れることで教員の負担減や子どもたちの学力向上につながるのであればぜひ検討したいと思った。

揖屋小学校 大谷 翔

藤村先生の「ICT、校務情報化」の失敗例を交えた講演をお聞きしたことで、「何となく便利」だったイメージが「導入すべき良いもの」になりました。加えて、大会開始前、昼休みの間にICT機器販売業者の展示説明があり、より理解が深まりました。今後の校務に生かしていきたいと思っています。

人権 コーナー

『付箋』

江津市立江津中学校

園山 淳雄

私は、学校事務の仕事の中でよく「付箋」を使う。電話対応をした時のメモ、他の職員への伝言、自分の中で忘れてはいけないと思う事柄を書きとめる時などだ。

付箋の束は、はじめはたくさんあるので、事あるごとに使い、付箋の大きさに対してかなりスペースのあまるような文字数でも使ってしまう。それがだんだんと束の数が減るにつれ、節約して使うようになる。毎度のことながら、いつもこの調子で使ってしまうのだ。使っていくにつれ特に最後の一枚というのは貴重な感じがする。これを使えば全てなくなる。大切にしようと思う。私は、たくさんあるとそうでもないが、数少ないとなると途端に貴重に思える。だからこそ、まだあるから大丈夫ではなく付箋のこの一枚一枚が貴重だということを感じている。

私は、学校という現場で子どもをみていく中において大切なことは付箋の一枚一枚がとても貴重だと思うことのように、子どもに対しても似たようなことがいえるのではないかなと思う。それは、児童・生徒『達』という団体でみるのではなく子『個』という単体で、一人をみていく事が何より大切ではないかなと思う。もちろん、学校という場所は集団で生活し行動をとる。私自身、生徒と接する機会がそれほどあるわけではないが、接する時にはどちらかといえば生徒達という団体でみてしまいがちだ。

しかし、生徒からすれば、教職員はそれぞれ一個人としてみているように思う。私はその環境に慣れすぎて果たして生徒が教職員を一個人としてみるように、私も同じように生徒を『達』ではなく『個』として接しているだろうかと考えさせられた。

自分をもてくれないというのは非常に寂しい。愛の反対語は無関心という言葉聞いた事があるが、『達』でみるということは、『個』としてみてはなく大袈裟に言えば『個』へは無関心ということではないだろうか。自分をもてくれているというのは大きな安心を生む。それは信頼や尊敬といった感情にも繋がることだと思う。だからこそこのような表現が適切かどうかはわからないが、付箋を通して私は、生徒（子）を一人としてみていく大切さに気付かされると同時に、これからも心がけようと思う。



島事研この一年

島事研は今年度鎌田会長を中心として新体制で活動を進めてまいりました。ここに年間の主な活動をお知らせするとともに、今後とも皆様のご協力をお願いします。

- 6/13 理事会・代議員会（あすてらす）
- 11/8 第43回島根県公立小中学校事務研究大会（ビッグハート出雲）267名参加
- 1/30 島根県公立小中学校事務職員の研修体制についての申し入れ（島根県教育センター）役員
- 2/15 第9回 島根県学校事務セミナー（ニューウェルシティ出雲）150名参加
- 3/6 理事会（大田）

研究部・研修部・広報部活動、役員会を開催。全事研等渉外活動を実施。



研修あれこれ

教育評価・分析(教育工学)講座

松江市立湖南中学校 北村 想至

私はこの講座を島根県教育センター能力開発研修の1つとして受講しました。昨今では学校評価の重要性が注目されていますが、この講座ではそういった調査に活用できるアンケート集計ソフト（SQS）について知識と技術を習得することができました。

湖南中学校でも学校評価にSQSを活用しています。以前は生徒・保護者合わせて1,000枚以上のアンケートを職員総出で手作業で集計していました。それが今では、1人が数時間作業するだけで集計が終わってしまいます。あとは今まで集計に費やしていた時間を有効に使って分析や改善策を話し合うことができます。

こういった研修を受けることによって、純粹に知識を得ることもできますが、それ以上に大切なことは、学校から離れ刺激を受けることで研修に関係すること以外にもちょっとした閃きを得ることができることです。普段の慣れた環境は決して不変不動なものではありません。研修によって得た知識や閃きを自身で整理したり、校内の教職員や他校の事務職員と共有することで、今までとほんの少しだけでも気持ちを変えることができます。そして新しい気持ちで周囲を見渡すと、よりよくできることが1つは見つけることができます。そのようなきっかけになる、研修の機会をこれからも大切にしていきたいです。

全国小中学校事務研究大会

大田市立鳥井小学校 永田 亜由美

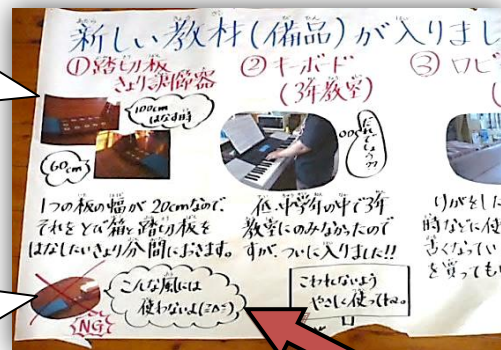


昨年の8月2・3日に茨城県つくば市で行われた全国小中学校事務研究大会へ出かけました。

2日目の分科会は、神奈川県“実践しよう！みんなイキイキ「感動」できる学校へ”に参加しました。内容は、事務職員ができる学校マネジメントについてでした。

事務職員は教員と比べて子どもと接する機会が少なかったり、子どもにどのようなことをしているのか見えにくかったりします。ある中学校の実践では、事務職員が生徒に向けてクイズ・名言や、新しく購入した備品を紹介していました。前者は自分を知ってもらうため、後者は自分の仕事を知ってもらうための実践だと思いますが、両方とも大成功だったそうです。

この実践を聞き、わたしも今年度購入した備品紹介をしてみました。実際に入ってきた備品を写真に撮る際、使い方がわからないものもあり、担当者に聞くこともありました。備品担当として購入の処理をするだけでなく使い方も知っておくべきだなと思いました。



間違った使い方の写真をどうしても使いたくて、“こんな風には使わないよ”というコメントも入れてみました。

この紹介を掲示したあと、職員室に入ってきた子どもたちが新しく購入したシュレッターに目がいたり、紹介を見たことを伝えてきたりしてくれました。

このような実践を今年だけにせず、これからも子どもたちに発信し続けたいと思います。

事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

それではと 仕事納めの 灯を消しぬ
十二月二十八日は官公庁の仕事納めである。
これから一月三日まで年末年始休暇に入る。最
後の二十八日に日直勤務が当たった人は、最後
の点検をして、寒冷地では水道の元栓を閉めた
りする。そして最後に仕事納めの電気を消す。

三学期てふ 正念場はじまりぬ

三月に入試を控えた中学三年生は、三学期が
始まるとそろそろ本気で受験勉強に取り組みな
くてはならない。中学校の三年間というものは、
思えばあつという間である。そしてまた、あつ
という間の三年間に向かって正念場を迎えてい
る。

降る雪や 時数の増える 生活科

朝、学校に着いてみると、校庭に白く雪が積
もっている。児童は朝礼までの時間に、雪だる
まを作っている。朝礼が始まって、なかなか
教室に戻らない。そして低学年は、そのまま生
活科の授業である。

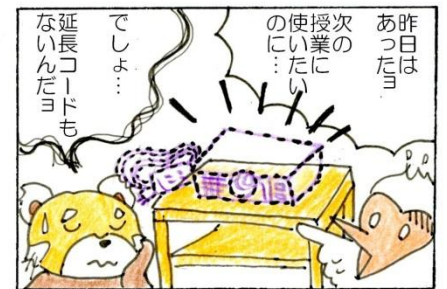
なごり雪 第二ボタンの はずされる

中学校の卒業となると、いよいよ別れの時で
ある。小学校の時と違って、それぞれの進路は、
自分の将来に向かって選択したものとなる。「あ
あこの胸の高鳴りは、無限の力の血のたぎ
り・・・」第二ボタンはどこへ行った？



Vol.24 おかん

Nice to meet you!!



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子

実務コーナー

週休日と休日が重なった日に勤務したら？

週休日と休日が重なった日は、週休日とみなされます。しかし、週休日の振替等を行ない勤務する場合は休日勤務となります。

(週休日とは…土曜日、日曜日/休日とは…祝日、12/29~1/3)

平成24年の場合は、1/1(日)、2/11(土)、5/5(土)、9/22(土)、11/3(土)、12/29(土)、12/30(日)が週休日と休日が重なった日です。

その日に勤務を命じられた場合は、次の3通りの取扱があります。

① 振替等を行わなかった場合 → 当該日は**週休日** (振替日はなし)



週休日の時間外勤務手当(135/100)

時間外勤務手当
や休日勤務手当の
支給は、学校栄養
職員及び学校事務
職員のみだよ!

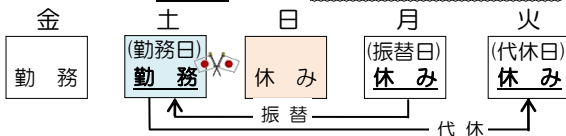
② 週休日等の振替を行った場合 → 当該日は**休日** (代休日はなし)



休日勤務手当(135/100)

祝日が日曜日に
当たるときは、翌
月曜日以降が振
替休日となるた
め該当しません。

③ 週休日を振替え、かつ代休日を指定した場合
→ 当該日は**勤務日** (結果、休みの日は2日となる。)



時間外勤務手当(25/100)



【編集後記】「もう5年の間に全体の3分の1が定年退職となり、30歳前後で中堅となる。」と、セミナーの時、安達義務教育課長代理よりお話を聞き、少なからずショックを受けたのは私だけではなかったと思います。県大会、セミナーなど若い事務職員の皆さんの活躍にうれしさを感じるとともに、ベテランもともに歩んでいきたいと思うこの頃です。今年度、みなさまのご協力で無事「爽」を発行することができました。感謝、感謝です。(A. Y)